

平成27年3月1日
千葉大学教育学部附属中学校

1 平成26年度学校評価の基本方針

- (1) 本校の学校評価（自己評価）は、文部科学省「学校評価ガイドライン」（平成22年7月20日）に則して実施し、以下に沿って自己評価報告書の作成と公表を行う。
- ① 平成26年12月に、本校生徒・保護者・教職員（校長を除く）に対して学校評価アンケートを実施し、それをふまえて平成27年3月に、本校管理職による「学校評価（自己評価）報告書」を作成し、本校保護者に対して本校ホームページ上で公表する。
 - ② 「学校評価（自己評価）報告書」について、以下の学校関係者から意見・要望等を聴取する。
 - ・平成27年4月 第1回PTA運営委員会において本校PTA役員より
 - ・平成27年5月 第1回学校評議員会において本校学校評議員よりまた、教育学部附属四校園の学校評議員会は、平成27年9月に「平成26年度千葉大学教育学部附属学校園学校評議員会学校評価報告書」を作成し、公表する予定である。
- (2) 本校の学校評価（自己評価）は、中等教育を行う学校としての一般的な評価項目についてとともに、国立大学教員養成系学部附属学校としての社会的使命及び本校の学校教育目標に照らした評価項目を盛り込んだ学校評価として行う。
- (3) 本校の学校評価（自己評価）は、「学校評価ガイドライン」が目的として掲げるように、本校が自らの教育活動その他の学校運営について、組織的・継続的な改善を図り、その説明責任を果たすことによって、保護者等から理解と参画を得て、その連携協力による学校づくりを進めることを意図するとともに、学校設置者である国立大学法人千葉大学によって、その結果に応じた支援や条件整備等の改善措置が講じられ、教育水準の保証・向上が図られることを要望して行う。

2 本校学校評価（自己評価）の実施概要

(1) 学校評価アンケートの実施

- ① 学校評価アンケートは、本校生徒・保護者・教職員を対象として、学習指導・生徒指導・学校運営（教育環境の整備・教育方針の具現化・附属学校としての責務の遂行等）に関する項目について、5段階での評価を依頼した。
- ② 学校評価アンケートの回収率は以下の通りであった。
 - ・生徒…100.0%
 - ・保護者…89.2%
 - ・教職員…100.0%

(2) 学校評価（自己評価）報告書（本書）の作成

- ① 本報告書は本校副校長及び校務室教員が各対象者ごとにまとめた原案をもとに、校長の責任において総括した。その際に、学校評価アンケートに反映されていない要素をも含めた、包括的な自己評価となるようにした。
- ② 本年度の学校評価アンケートは質問項目を昨年度と同様としたが、対昨年度比についての記述は必要最小限にとどめ、長期的な経年変化の考察と展望は今後の課題とした。なお、対昨年度比の増減は、生徒・保護者については同一母集団に対する比較数値である。△はマイナスを示す。

3 学校評価アンケートの結果の概要

(1) 生徒アンケート

番号	評価項目	学年	5	4	3	2	1	平均	25年度平均	増減
学習指導	1 先生はわかりやすく工夫した、充実した授業をしていると思いますか。	1年生	81	51	11	4	1	4.40		
		2年生	97	49	3	4	2	4.52	4.53	△ 0.01
		3年生	112	47	7	3	1	4.56	4.52	0.04
		全学年	290	147	21	11	4	4.50	4.46	0.04
	2 先生は一人一人の学習状況を考えて、ていねいに教えていると思いますか。	1年生	62	55	18	11	2	4.11		
		2年生	68	57	21	7	2	4.17	4.39	△ 0.22
		3年生	94	51	20	1	4	4.35	4.14	0.21
		全学年	224	163	59	19	8	4.22	4.22	△ 0.00
	3 先生は自分で課題を解決したり、意見を発表したりする授業をしていると思いますか。	1年生	87	45	12	1	3	4.43		
		2年生	103	39	9	3	1	4.55	4.65	△ 0.10
		3年生	120	40	8	2	0	4.64	4.57	0.07
		全学年	310	124	29	6	4	4.54	4.56	△ 0.02
生徒指導	4 先生は一人一人の性格や考え方を大切にし、良さを伸ばす指導をしていると思いますか。	1年生	72	45	18	8	5	4.16		
		2年生	78	45	22	6	4	4.21	4.32	△ 0.11
		3年生	103	38	23	5	1	4.39	4.13	0.26
		全学年	253	128	63	19	10	4.26	4.21	0.05
	5 先生は困った時に親身になって対応していると思いますか。	1年生	78	37	19	9	5	4.18		
		2年生	72	49	22	8	4	4.14	4.28	△ 0.14
		3年生	99	39	22	8	2	4.32	4.06	0.26
		全学年	249	125	63	25	11	4.22	4.20	0.02
	6 先生はルールやマナーを守り、規律や規範意識を育てる指導をしていると思いますか。	1年生	96	35	10	4	3	4.47		
		2年生	103	34	13	3	2	4.50	4.65	△ 0.15
		3年生	111	40	15	4	0	4.52	4.38	0.14
		全学年	310	109	38	11	5	4.50	4.40	0.10
学校運営	7 学校の施設・設備や備品は、安全で、よく整備されていると思いますか。	1年生	92	34	13	4	3	4.42		
		2年生	100	38	13	3	1	4.50	4.52	△ 0.02
		3年生	116	39	11	2	2	4.56	4.41	0.15
		全学年	308	111	37	9	6	4.50	4.44	0.06
	8 学校は自分が将来、社会に出た時に役に立つ力をつけてくれていると思いますか。	1年生	80	41	19	3	5	4.27		
		2年生	103	42	5	2	3	4.55	4.63	△ 0.08
		3年生	116	40	10	2	2	4.56	4.53	0.03
		全学年	299	123	34	7	10	4.47	4.53	△ 0.06
	9 学校の行事や生徒会活動・学級活動、校外学習など特色ある活動になじんでいると思いますか。	1年生	97	39	6	2	4	4.51		
		2年生	117	28	7	2	1	4.66	4.75	△ 0.09
		3年生	136	26	3	4	1	4.72	4.62	0.10
		全学年	350	93	16	8	6	4.63	4.64	△ 0.01
10 本校に入学して良かったと思いますか。	1年生	100	29	14	1	3	4.51			
	2年生	116	19	14	5	1	4.57	4.78	△ 0.21	
	3年生	142	17	7	2	2	4.74	4.62	0.12	
	全学年	358	65	35	8	6	4.61	4.68	△ 0.07	

①学習指導

すべての学年で、平均値は3項目とも4.2を超えており、授業について生徒たちは概ね肯定的にとらえているといえる。項目2「一人一人の学習状況を考えて、ていねいに教えている」は、昨年度と比べて増減がなかったが、項目3「先生は自分で課題を解決したり、意見を発表したりする授業をしている」は微減となり、項目1「先生はわかりやすく工夫した、充実した授業をしている」は微増となって平均値が4.5となった。

②生徒指導

すべての学年で、平均値は3項目とも昨年度を上回った。項目6「ルールやマナーを守り、規律や規範意識を育てる指導をしている」は、昨年度は平均値の学年間差が全項目中で最大であったが、今年度は0.05となり、学年間の差はほとんどなくなった。今年度の全10項目中で、唯一2年生の平均値が1年生を下回った項目が、項目5「困った時に親身になって対応している」であった。

③学校運営

すべて学年で、平均値は全項目で4.5以上であり、生徒たちは本校を肯定的にとらえているといえる。特に項目9「学校の行事や生徒会活動・学級活動、校外学習など特色ある活動になじんでいると思うか」は、全学年の平均値が4.63で、今回の評価10項目中で最高値となった。昨年度の最高値の項目10「本校に入学して良かったと思うか」は0.07減少し、4.61という結果だった。

【総括】

全学年の平均値では、10項目中5項目において昨年度を上回り、また、10項目すべてが4.2を超えた。昨年度の最低値は4.15であった。学年別の平均値では、10項目すべてにおいて3年生が最も高かった。同一母集団を昨年度と今年度とで比較すると、全項目で2年生→3年生では増加、1年生→2年生では減少している。しかし、これに対して χ^2 検定を行ってみると、5%水準で有意差とな

るのは、2年生→3年生では項目2・項目3，1年生→2年生では項目10のみであった。1年生→2年生で全項目減少となった背景として、昨年度はこの学年の平均値が全項目で最も高かったということが関係しているかもしれないし、学年進行にそっていったん低下し、また上がるという一般的傾向があるということかもしれない。今後も追跡調査を継続することとする。

(2) 保護者アンケート

番号	評価項目	学年	5	4	3	2	1	平均	25年度平均	増減
学習指導	1 先生はわかりやすく工夫をした、充実した授業をしていると思いますか。	1年生	46	54	13	1	0	4.27		
		2年生	62	65	18	2	0	4.27	4.38	△ 0.11
		3年生	67	60	13	1	1	4.35	4.11	0.24
		全学年	175	179	44	4	1	4.30	4.24	0.06
	2 先生は生徒一人一人の学習状況を考えて、ていねいに教えていると思いますか。	1年生	25	52	27	10	0	3.81		
		2年生	36	51	42	12	3	3.73	3.94	△ 0.21
		3年生	48	48	39	5	1	3.97	3.72	0.25
		全学年	109	151	108	27	4	3.84	3.90	△ 0.06
	3 先生は生徒が自分で課題を解決したり、意見を発表したりする授業をしていると思いますか。	1年生	61	48	9	1	0	4.42		
		2年生	80	48	19	1	1	4.38	4.27	0.11
		3年生	78	53	11	1	0	4.45	4.30	0.15
		全学年	219	149	39	3	1	4.42	4.30	0.12
生徒指導	4 先生は生徒が自分で課題を解決したり、意見を発表したりする授業をしていると思いますか。	1年生	37	55	21	6	0	4.03		
		2年生	51	51	35	6	1	4.01	4.16	△ 0.15
		3年生	58	58	19	6	1	4.17	3.85	0.32
		全学年	146	164	75	18	2	4.07	4.11	△ 0.04
	5 先生は困った時に親身になって対応していると思いますか。	1年生	49	50	20	4	0	4.17		
		2年生	61	47	28	8	2	4.08	4.11	△ 0.03
		3年生	68	47	22	1	3	4.25	4.02	0.23
		全学年	178	144	70	13	5	4.16	4.15	0.01
	6 先生は生徒がルールやマナーを守り、規律や規範意識を育てる指導をしていると思いますか。	1年生	48	59	15	2	0	4.23		
		2年生	67	55	19	6	0	4.24	4.36	△ 0.12
		3年生	63	61	17	1	0	4.31	4.13	0.18
		全学年	178	175	51	9	0	4.26	4.25	0.01
学校運営	7 学校の施設・設備や備品は安全で、よく整備されていると思いますか。	1年生	62	47	16	1	0	4.35		
		2年生	77	53	16	3	0	4.37	4.53	△ 0.16
		3年生	68	56	17	2	1	4.31	4.30	0.01
		全学年	207	156	49	6	1	4.34	4.43	△ 0.09
	8 学校は生徒が将来、社会に出た時に役に立つ力をつけてくれていると思いますか。	1年生	59	50	13	2	0	4.34		
		2年生	75	54	18	3	0	4.34	4.34	0.00
		3年生	80	48	16	1	0	4.43	4.21	0.22
		全学年	214	152	47	6	0	4.37	4.29	0.08
	9 子どもは学校の行事や生徒会活動・学級活動、校外学習など特色ある活動になじんでいると思いますか。	1年生	75	40	8	1	0	4.52		
		2年生	95	49	7	0	1	4.56	4.57	△ 0.01
		3年生	98	36	10	0	1	4.59	4.49	0.10
		全学年	268	125	25	1	2	4.56	4.57	△ 0.01
10 附属中学校に入学させて良かったと思いますか。	1年生	83	29	13	2	0	4.52			
	2年生	101	33	16	1	1	4.53	4.64	△ 0.11	
	3年生	109	28	5	0	2	4.68	4.53	0.15	
	全学年	293	90	34	3	3	4.58	4.60	△ 0.02	
11 学校は情報公開や家庭との連絡・連携に努めていると思いますか。	1年生	54	54	12	5	0	4.26			
	2年生	69	57	22	3	1	4.25	4.26	△ 0.01	
	3年生	69	60	12	4	0	4.34	4.07	0.27	
	全学年	192	171	46	12	1	4.28	4.21	0.07	
12 学校は国立大学附属学校としての社会的使命を十分に果たしていると思いますか。	1年生	54	53	13	1	0	4.32			
	2年生	69	50	25	3	0	4.26	4.33	△ 0.07	
	3年生	76	52	10	1	1	4.44	4.22	0.22	
	全学年	199	155	48	5	1	4.34	4.28	0.06	

①学習指導

すべての学年において、項目3「先生は生徒が自分で課題を解決したり、意見を発表したりする授業をするか」が、生徒のアンケート同様に高く評価されている。これは、本校が昨年度から学校全体の研究として取り組んでいる、生徒を主体とした学習スタイルであるファシリテーションの効果が、各教科の指導において現れているためと考えられる。また、自分で課題を設定し、解決していく選択授業や総合的な学習の時間（「共生」）の学習スタイルの効果も高評価の要因になっていると考えられる。ただし、項目2「先生は生徒一人一人の学習状況を考えて、ていねいに教えていると思うか」が全項目の中で最も評価が低かった。生徒への個別指導のあり方が課題として残る。

②生徒指導

すべての学年において、項目4「先生は一人一人の性格や考え方を大切にし、良さを伸ばす指導をしていると思うか」が低く評価されており、学習指導に関する項目2「先生は生徒一人一人の学習状況を考えて、ていねいに教えていると思うか」とともに、アンケート項目の中で、下位2つを占めている。生徒指導面においても、自分の子どもをもっと見て対応して欲しいとの要求が強いこ

とを自覚していかなければならない。学習指導面においてきめ細やかに対応することにより、生活指導面が連動して改善されていくように努めたい。

③学校運営

すべての学年において、項目10「附属中学校に入学させて良かったと思うか」が、全項目中で最も評価が高かった。また、項目9「子どもは学校の行事や生徒会活動・学級活動・校外学習など特色ある活動になじんでいると思うか」が、全項目の中で2番目に評価が高かった。両項目とも半数以上の保護者が5の評価をしており、学校生活全般に関して多くの保護者の支持を得ていると思われる。項目8「学校は生徒が将来、社会に出たときに役に立つ力をつけていると思うか」は、かつては低い評価であったが、各学年におけるキャリア教育等を積極的に推進してきたことから、ここ数年は高い評価を得られるようになってきている。総じて、学校運営における本校の方針や特色化について、保護者からは広い理解が得られていると考える。

【総括】

全学年の平均値では、質問3「先生は生徒が自分で課題を解決したり、意見を発表したりする授業をしていると思うか」について0.12ポイント増、「学校の施設・設備や備品は安全で、よく整備されていると思うか」について0.09ポイント減であったが、その他はプラスは0.08ポイント以下、マイナスは0.06ポイント以下であり、大きく変わっていない。同一母集団についての昨年度との比較では生徒アンケートと同様に、1年生→2年生ではほとんどの項目で減少に、2年生→3年生では全項目で増加になった。 χ^2 検定を行っても、5%水準で有意差となるのは、1年生→2年生では該当なし、2年生→3年生でも項目4・項目11・項目12だけであり、今後も調査を継続していきたい。

(3) 教職員アンケート

番号	評価項目	5	4	3	2	1	平均	25年度平均	増減
学習指導	1 教員は熱心に工夫をして、授業をしていると思いますか。	22	5	0	0	0	4.81	4.17	0.64
	2 教員は生徒一人一人の学習状況を考えて、ていねいに教えていると思いますか。	12	9	6	0	0	4.22	3.79	0.43
	3 教員は生徒が自分で課題を解決したり、意見を発表したりする授業をしていると思いますか。	15	11	1	0	0	4.52	3.97	0.55
生徒指導	4 教員は生徒一人一人の性格や考え方を大切に指導していると思いますか。	12	12	3	0	0	4.33	3.66	0.67
	5 生徒や保護者が困った時に、教員は親身になって対応していると思いますか。	14	13	0	0	0	4.52	4.00	0.52
	6 教員は生徒がルールやマナーを守り、規律ある生活を送れるように指導していると思いますか。	7	13	6	1	0	3.96	3.38	0.58
学校運営	7 学校の施設・設備や備品は安全で、よく整備されていると思いますか。	11	10	6	0	0	4.19	3.72	0.47
	8 学校は生徒が将来、社会に出た時に役に立つ力をつけていると思いますか。	8	14	5	0	0	4.11	3.62	0.49
	9 教育課程や学校行事などの教育活動、入学者選抜や学校評価などが適切に行われていると思いますか。	16	8	2	1	0	4.44	3.90	0.54
	10 安全点検や保健安全対策、防災対策、情報セキュリティ対策が着実に進められていると思いますか。	11	14	2	0	0	4.33	4.28	0.05
	11 会議・打合せや校務分掌、生徒指導や保護者対応などについて、校内体制が整備され、円滑に進められていると思いますか。	5	15	6	1	0	3.89	3.24	0.65
	12 学校全体や各教科、個人の教育実践研究が意欲的に進められていると思いますか。	10	13	3	1	0	4.19	3.90	0.29
	13 教育実習指導が適切に実施されていると思いますか。	9	14	3	1	0	4.15	4.17	△0.02
	14 大学・学部との連携・協力や地域との連携・貢献が積極的に行われていると思いますか。	6	13	7	1	0	3.89	3.69	0.20
15 学校は国立大学附属学校としての社会的使命を十分に果たしていると思いますか。	7	16	4	0	0	4.11	3.66	0.45	

①学習指導

項目1「教員は熱心に工夫をして、授業をしていると思うか」及び項目3「教員は生徒が自分で課題を解決したり、意見を発表したりする授業をしていると思うか」については、特に高い評価となっている。生徒一人一台タブレット導入に向け、教員研修を実施したり、通常の公開研究会の他にICT授業研究会に向けて各教科で取り組んできたりした成果であると考えられる。また、教員の約3分の1が入れ替わったことで、日常の授業を実施するにも多くの工夫・準備が必要であったことが、高い肯定感につながったと考えられる。項目2「教員は生徒一人一人の学習状況を考えて、ていねいに教えていると思うか」については、昨年度より大幅に向上しているが、生徒・保護者の評価とは大きな隔りがある。教員としては十分に個に対応していると考えているが、生徒・保護者から見るとまだ不十分であるということになる。今後の課題としたい。

②生徒指導

全項目で0.5ポイント以上の向上があった。項目4「教員は生徒一人一人の性格や考え方を大切にして指導していると思うか」及び項目5「生徒や保護者が困った時に、教員は親身になって対応していると思うか」については、教員の自己評価の方が保護者の評価より高く、保護者は教員の対応はまだ十分ではないととらえていることになる。項目6「教員は生徒がルールやマナーを守り、規律ある生活を送れるように指導していると思うか」については、保護者の評価の方が高く、教員の方がもっと厳しく、規範意識を育てる指導をしていかなければならないと考えている。

③学校経営

項目7「学校の施設・設備や備品は安全で、よく整備されていると思うか」及び項目8「学校は生徒が将来、社会に出た時に役に立つ力をつけていると思うか」、項目9「教育課程や学校行事などの教育活動、入学者選抜や学校評価などが適切に行われていると思うか」については、いずれも昨年度より0.5ポイントほど高くなった。教員にはICT教育推進を中心とした教育環境が改善され、生徒の将来に役立つ力を育てているという自覚がある。項目10「安全点検や保健安全対策、防災対策、情報セキュリティ対策が着実に進められていると思うか」及び項目12「学校全体や各教科、個人の教育実践研究が意欲的に進められていると思うか」についても、昨年度よりやや向上した。

項目11「会議・打合せや校務分掌、生徒指導や保護者対応などについて、校内体制が整備され、円滑に進められていると思うか」及び項目14「大学・学部との連携・協力や地域との連携・貢献が積極的に行われていると思うか」については、昨年よりは向上したが、ともに3.89と全項目中で最も低く積年の課題となっている。

項目14「教育実習指導が適切に実施されていると思うか」については、唯一評価が下がった項目である。今年度新しく赴任した教員が9名いたことが主要因であろうが、教育実習・教員養成教育は本校の使命の一つであり、今後充実させていくことが必要である。項目15「学校は国立大学附属学校としての社会的使命を十分に果たしていると思うか」については、前年度より大きく評価が上がっており、教員一人一人の意識と努力があったと考えられる。

【総括】

母集団が異なるために、昨年度との比較にどれほどの有効性があるかは即断できないが、試みに χ^2 検定を行ってみると、5%水準で項目1～5と項目11で有意差ありとなった。今年度は実際に教員が大幅に入れ替わったが、全体的に職務に対する意識が高く、お互いにコミュニケーションをよく取り合って協力して教育活動を進められる集団が形成されつつあると実感できる。

学習面でも生活面でも、個別の生徒へのきめ細やかな対応については、教員も相当に努力していると思うが、生徒・保護者の期待はそれ以上であるという自覚を持って臨む必要がある。

4 学校評価（自己評価）の総括

（1）共通項目の生徒・保護者・教職員間の比較

生徒・保護者・教職員へのアンケートで共通内容を聞いている項目1～10について、相互の比較をまとめたのが、次の表である。

学校評価アンケートにおける評価値は、「生徒>保護者>教職員」となって現れやすいが、本年度に関しては、そのような結果となったのは項目6・7・8だけであり、

・教職員評価が生徒評価・保護者評価を上回る 項目1・4・5

・教職員評価が保護者評価を上回る 項目2・3
 という結果を得た。自分たちの教育活動に自信を持っているともいえるし、反面で高い自己評価に対して生徒・保護者からの期待の方が、さらに上をいっているともいえる。

項目1「授業の創意工夫・改善」については、前記の通り、

- ・本校新任教員が大幅に増えたために、毎日の授業の構想、教材の発掘など、授業研究に意欲的に取り組んできたこと
- ・全体研究課題である「ファシリテーション」をキーワードとした授業の見直し・改善への創意を進めてきたこと
- ・新しい研究課題としてICT教育に、さまざまな課題は抱えつつも、全校的に積極的に取り組んできたこと

が、いい影響を及ぼしていると考えられる。ただし、生徒・保護者の評価がまだ付いてきていない状態でもあり、今後も、学校としての方向性についても、個々の授業の内容についても、より丁寧な説明を十分に行うことを含め、さらに努力していく必要がある。特に学習指導・生徒指導両面における、個別の生徒に対するきめ細やかな指導は、従来からの課題である。

項目7「施設・設備・備品等の整備充実」についても、教職員の評価が高いのは、やはり本校新任教員が増えたこと、ICT教育環境をこの2年でハイピッチで進めてきたことの結果である。少なくとも一般公立中学校よりは、恵まれた環境にあるのは確かである。しかし、よく見ると施設・設備の老朽化・破損、備品・機材等の陳腐化は明白である。大学法人本部への経費要求を、今後の継続的な課題とする。

項目9「学校行事・生徒会活動等の特色ある教育活動」、項目10「本校入学への肯定感」については、生徒・保護者ともにおおよそ高い評価を得ている。今後も、「附属中らしさ」をよりいっそう押し進めていきたいと考える。

共通項目			生徒		保護者		教職員	
			25年度	26年度	25年度	26年度	25年度	26年度
学習指導	1	授業の創意工夫・改善	4.46	4.50	4.24	4.30	4.17	4.81
	2	個々の生徒の学習状況への対応	4.22	4.22	3.90	3.84	3.79	4.22
	3	総合的な学力の育成への対応	4.56	4.54	4.30	4.42	3.66	4.52
生徒指導	4	個に対応した生徒指導	4.21	4.26	4.11	4.07	3.66	4.33
	5	問題が生じた場合の生徒・保護者への支援	4.20	4.22	4.15	4.16	4.00	4.52
	6	規範意識・道徳性の指導	4.40	4.50	4.25	4.26	3.38	3.96
学校運営	7	施設・設備・備品等の整備充実	4.44	4.50	4.43	4.34	3.72	4.19
	8	社会で役立つ資質の教育	4.53	4.47	4.29	4.37	3.62	4.11
	9	学校行事・生徒会活動等の特色ある教育活動	4.64	4.63	4.57	4.56		
	10	本校入学への肯定感	4.68	4.61	4.60	4.58		

(2) 共通項目以外での今後の課題

昨年度の総括評価と同様に、今後の大きな課題は二つある。

一つは、校内の校務組織及び連携・協働体制をよりよくすることである。職員室不在の教科研究室分散方式、教員間の意思疎通のむずかしさ、公立学校との学校実務の違い、教育実習指導等による附属学校独自の業務負担、附属学校特有の生徒・保護者への対応、その他の校務の多さなどに原因がある。昨年度よりは改善されたが、学校の管理運営の問題として可能な取り組みを、さらに進めていく必要があると感じる。

課題の二つめは、国立大学教員養成系学部附属学校としての地域連携・社会貢献活動の充実である。次の表のように、昨年度までにこの点での貢献度の高かった教員が転出し、若い教員が増えたことで学校全体の件数としては減少した。しかし、今後も科学研究費助成金(奨励研究)への応募と同様に、教員個人の学校外での社会的な教育研究活動は、けっして大学や学校のためということではなく、個々

の教員のキャリアアップにつながるものだという視点に立ち、奨励していきたい。具体的には、よりフレックスな勤務時間運用の実現と、学校業務を教員相互に補完できる体制作りを考えていきたい。

活動の内容		25年度	26年度
各種の委員会等の委員	文部科学省・千葉県及び県内市町村教育委員会が管轄する委員会等の委員	3	2
	千葉県及び県内市町村教育研究会の委員	5	2
	公益法人・教育関係団体・教育関係企業等の主催する委員会の委員	4	6
	他校の学校評議員	2	2
研修指導講師	文部科学省・千葉県及び県内市町村教育委員会等が主催する研修会の指導講師	6	5
	千葉県及び県内市町村教育研究会・体育関係団体が主催する研修会の指導講師	2	1
	他県の県・市町村教育委員会が主催する研修会の指導講師	3	2
	他県の県・市町村教育研究会・体育関係団体が主催する研修会の指導講師	1	0
	他校(県外を含む)の研修会の指導講師	2	0
	他校(県外を含む)から派遣される研修教員の指導受入	3	0
	公益法人・教育関係団体・企業が主催する研修会の指導講師	4	4
地域の教育活動	千葉県及び県内市町村教育研究会の運営	5	6
	千葉県及び県内市町村体育関係団体の運営	5	6
	公益法人・教育関係団体が主催する活動の指導・運営協力	4	3
その他	公開研究会の実施	1	2
	外国人留学生の見学受入	1	2
	その他	2	4

53 47

(3) 昨年度の学校評議員会での指摘からの改善方策と課題

○学習指導について

- ・ 生徒個別の対応のあり方、個別の学習相談への取組について研究をし、具体的な対応策についての情報交換の場の設定等、学校全体として取り組み、その成果を公表してはどうか。
 - － 本年度は本校新任の教員が一挙に増えたために、まず日々の授業構想や教材開発に工夫をすることに専念し、その過程で本校特有の学習指導の課題（学習到達度の差が激しいこと、学校が掲げる目標と保護者の現実的な要望とにギャップがあることなど）を理解してもらうことを優先した。本校でただちに、補習の時間を導入することは無理があるが、次年度より新規に何が可能かを検討していきたい。
- ・ 日々の授業の工夫や総合的な能力の育成など、附属中の授業の良さを保護者に伝え、また、個別の生徒の学習上の困難点を保護者から伝えてもらえるようなシステムを作ってはどうか。
 - － 前項と同様に、本年度においては保護者会の折等に、これからの我が国の教育がめざしていく学力などについて説明する程度の試みにとどまっている。次年度はこれをさらに拡大し、より効果的に伝え、伝えられる方策を検討したい。
- ・ 学校として力点を置いている「社会で役立つ資質の教育」に対しても、生徒・保護者と教職員の自己評価で差がある。「役立つ力」のとらえ方を再確認する必要があるのではないか。
 - － ICT教育はまちがいなく、将来、社会で役立つ能力の育成に資するだろうが、さらに研究部に対して、「21世紀型能力」から本校の現在の教育をどうとらえられるかについて検討するように指示している。また、本校の特色である「共生の時間（総合的な学習の時間）」、「選択教科」について、「21世紀型能力」による新しい意義づけができないか、検討させている。
- ・ ICT教育の充実やタブレットPCの効果的な活用及び情報セキュリティや情報モラル教育への取り組みについてさらに研究を進め、情報発信してどうか。
 - － 第1回ICT公開授業研究会は盛況であり、好評であった。単にICTの良さを伝えるだけでなく、課題と効果に言及した点が評価されている。今後も継続したいが、予算がボトムネックになっている。情報セキュリティについては、本年度は3回の校内研修を行って、個人情報保護の意識を

徹底した。情報モラル教育については、本年度は一部の道徳授業で実施したところなので、次年度は同時期に一斉に実施できないかを検討したい。この兩者についての学校の取組をまとめて発信することは、近い将来の課題としたい。

○生徒指導について

- ・ 「規範意識・道徳性の指導」について、生徒・保護者・教職員間で評価に差がある。生徒に求める規律や規範、指導の共通理解や協力体制について、再確認が必要ではないか。
 - － 本校が目標とする生徒の規範意識に対する共通理解を高める点では、本年度は生徒指導部会・教育相談部会が意欲的に活動した。次年度は、情報モラル教育、いじめ防止の教育とともに、「道徳の時間」の再検討を進めたい。

○学校運営について

- ・ 学校予算に関しては、厳しい条件の中で教育環境の整備充実に努めてきたとのことだが、設置者である大学法人への働きかけを、より強く行っていく必要があるのではないか。
 - － この数年間の本校の財務改善の成果として、本年度は相当に計画的な校内環境整備を進めることができた。加えて統合50周年事業の中でも、かなり整備を進められた。ここ数年間は、年度当初に学長裁量経費として学校図書館の整備充実とICT教育環境の整備充実を申請し、年度末にもICT教育環境整備への大学・教育学部からの予算執行を要望してきた。その一部は着実に実現している。今後も大学法人に対して、必要な働きかけは行っていく。
- ・ 附属学校の弱点に「地域との連携」がある。他校との連携などを通して改善を図ってはどうか。
 - － 地域との交流は、生徒にとって重要な社会との接点であり、貴重な学びの場となるものである。しかし、学校一斉での他校との連携は、現状ではなかなか実現しにくいという認識でいる。当面は、各教科の授業等において、地域との交流を実現できる方法を模索したい。
- ・ 校内の協力体制の構築に対する教職員の評価は他と比較して高くはなく、今後は、学校の教育活動について教職員が共通に理解し、効果的に意思疎通を図るための工夫が必要ではないか。
 - － 特に大きな体制変革をしたわけではないが、本校新任の教員が増えたことから、各教科・各学年・各分掌などごとに連絡・相談を密にするよう促してきた。その結果、主には中堅教員の尽力によって、教員相互のコミュニケーションは改善されている。
- ・ 国や県から出される大きな教育課題も重要だが、身近な課題（例えば、生徒指導の機能を生かした「わかる授業」など）について、モデルとなるような実践や授業を提起してはどうか。
 - － 現実的には、学校全体の研究課題やその成果の発信機会をふやすことはむずかしいが、実際には教員の日々の授業で実践されていることであり、個人の実践の成果として学校の研究紀要などに発表すること、科学研究費助成金（奨励研究）等に応募することを促進している。
- ・ 附属中学校に勤務したい気持ちのある人を募る今の人事交流の現状を考え、附属中学校に勤めることの魅力を発信できるシステムを作っていく必要があるのではないか。
 - － 交流人事については、現状は千葉県教育庁教育振興部教職員課にある人事室の配下に置かれており、本校が独自性を発揮できる余地はほとんどない。システムを抜本的に見直すことができないか、検討を求めている。

○学校評価アンケートについて

- ・ 調査対象の母集団を同じにして、経年変化を追っていくアンケート調査を行ってはどうか。
 - － 既述のように、昨年度からの変化を追跡する調査を実施できた。次年度もこれを継続したい。
- ・ 保護者は、例えば学習指導については授業参観だけを見て、評価しているということがあるのではないか。そこで、保護者独自の質問項目を設けてはどうか。
 - － 本年度に関しては昨年度と同一内容で実施することを優先した。将来的には、例えば、「家庭では学校のことについて子どもとよく話をするか」、「学校から家庭への連絡文書をよく読んでいるか」、「学校の授業・行事や生徒指導などの方針、具体的な内容に関心があるか」、「このアンケートへの回答では、主に何を情報源・判断材料としたか」という類の質問を考えていきたい。
- ・ 協力的な保護者が多いはずの附属にしては76%という回答率は低い。この数値を上げる必要があるのではないか。数値目標を掲げてはどうか。
 - － 特に数値目標を上げることはしなかったが、呼びかけを徹底することによって、本年度は90%に近い回答率を達成することができた。次年度のアンケートにおいては、保護者95%の回収率を数値目標として明示したい。